

## 仙台市長町駅前第一地区第一種市街地再開発事業

### 【事業目的】

仙台市長町駅前第一地区第一種市街地再開発事業のアメニティ計画の一環として計画されたアートワーク。

もともとの計画は、再開発の関係企業や個人を記した銘板をつくるものであったが、現在から将来の地域社会に長町らしさを残す手法として、市民参加型のアートワークを制作し、仙台市太白区文化センターが入る「たいはっくる」ビルの地下街エントランス階段の壁面に設置された。

### 【事業概要】

若手現代アーティストと長町小学校の子ども達がワークショップを通して、アートワークの原画を作成し、最終的に恒久的な素材である陶版壁画として完成させた。このプロジェクトの実施は、1990年代後半であり、当時欧米で行われていた「コミュニティ・アート」と呼ばれる新しいタイプの参加型パブリックアートを国内で試みたレアケースであった。アーティストだけの発想や手によってのみ作品を完成するのではなく、アーティストがファシリテーター（進行役）またはディレクターとして、コミュニティの参加を促し、協働して作品を作っていくプロセスを重視するプロジェクトとなった。

4つのテーマ；『未来の長町のマスコット』、『未来の家』、『未来の街』、『未来の服』を、アーティストの中村とアートディレクターの工藤が考案し、子ども達が自由に発想した未来の像を、グラフィックデザイナーの桑名の手を借り、3Dコンピューター画像で具体的な表現に変換した。

子ども達の自由な発想は、既成概念にとらわれのない豊かな想像力から生まれる。大人たちが持つ既成概念、たとえば“建築”というと「四角でコンクリート、鉄、木材」、「衣服」なら「体に合った着やすいもので、布製」といった常識に縛られがちなイメージにたいし、未来を担う子ども達の新鮮な発想で、これまでに見たことのないような像を作り上げる。

さらに、このプロジェクトの特徴は、子どもたちが描いた絵をそのまま作品化するのではなく、子ども達の“発想”そのものを3Dグラフィックにより作品化したことだ。絵が苦手だと思っている子どもにも美術にふれるチャンスを作り、参加した全員の子どもの発想やアイデアが一つの絵の中に織り込まれていく事を意図した。

### 【ワークショップについて】

開催場所：仙台市長町小学校 対象：4年生（1～4組）

各テーマ別（『未来の長町のマスコット』、『未来の家』、『未来の街』、『未来の服』）に、学校外部からそれぞれ講師を招聘し、子どもたちにわかりやすく講義をする。それにより子どもたちの創造性を刺激し自由な発想を促していく。アーティストの中村氏、各講師から、テーマに沿った様々なスライドや話をワークショップの中に組込んでいく。

■ スケジュール (一回：1 授業 45 分内)

第1回 11月16日	1. 各クラスでの中村氏の挨拶と今回のアートワークの説明 * アートって何？ * プロジェクトの目的 (何のために子ども達に参加してもらうか) * 内容 (どのような事をしてゆくか) 2. ウォーミング・アップ * グループに分かれて簡単なワークショップをおこなう		
第2回 11月17日	1. テーマ別の講師によるレクチャー		
	クラス	テーマ	講師
	1組	『未来の長町のマスコット』	地元歴史家のお話(伊達住職:曹洞宗)
	2組	『未来の家』	建築家のお話(久米設計)
	3組	『未来の街』	都市計画関係の方のお話(交渉中)
	4組	『未来の服』2枚(男・女用)	洋服デザイナーのお話(交渉中)
	2. レクチャー後、中村氏により、レクチャー内容のポイントを子ども達と共に考える 3. 中村氏による子ども達への宿題の説明		
第3回 11月19日	子ども達による宿題の発表 * 担任の先生による指導の下に行う		
第4回 11月20日	1. 中村氏によるスライドレクチャー * 各テーマに関連した事例写真を子ども達に見せる 2. 子どもを参加させた原画制作 * 中村氏の誘導による原画のまとめ		

■アートワークの制作工程 5 ヶ月

工程	10月		11月		12月		99/1月		2月		3月	
	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20
作家オリエンテーション	●											
現場下見		●										
学校内協議・調整	●	●										
ワークショップ実施			●	●								
原画完成				●	●							
壁画制作					●	●	●	●				
取付工事									●			
完成										●		